



ABILITY 2.0 PRO

ABILITY Pro 徹底攻略!

その19 EDM系のオーディオループ素材を追加

簡単にリアルでグルーヴ感あふれるサウンドが活用できるオーディオ・ループに、EDM系の素材が追加されました。EDMは打ち込みとシンセサイザーに特化したジャンルですが、よく耳にするようなサウンドを自分で作るのには意外と大変です。オーディオ素材を使うことで、本格的なEDMサウンドを手軽に取り入れることができ、各素材をトラックに貼っていけば打ち込みは不要で、作曲を楽しむことができます。(文：平沢栄司)

ドラム、ベース、各種シンセのオーディオ素材を200種類用意

オーディオ素材は、メディア・ブラウザからオーディオ・トラックに貼っていくことで利用できます。ABILITYに付属する大量のオーディオ素材からEDM系の素材をセレクトする時は、絞り込み検索の機能の「ジャンル」の項目で「イーディーエム」を選択しておくことで便利です(画面1)。用意されるのは、ドラムが57種、シンセ・ベースが48種、シンセサイザーが77種、サウンド・エフェクトが18種の計200種類で、EDMの定番であるテンポ128BPMに設定された1～2小節パターンのループが中心となっています。

例えば、ドラムはキックの4つ打ちパターンを基本に、キックの音色のバリエーションや、スネアやハイハットの音色やパターンが異なるものが用意されています。やはり、EDMではドラムのサウンド…特にキックの音は重要なので、手間をかけずに即戦力となるサウンドで定番のビートが鳴らせるのは便利です。続いて、シンセ・ベースはルート弾きやオクターブといった基本フレーズだけでなく、サイドチェイン・コンプを使って独特の抑揚を加えたものや、強烈な音色の変化を伴うウォブル・ベースのフレーズが用意されている点に注目。通常の打ち込みだけでは難しい、EDMならではのベース・サウンドが手軽に扱えます。一方、シンセサイザーのループには、それ

ばいフレーズやシーケンス・パターンが多数用意されていて、それらを試聴するだけでも創作意欲が刺激されます。これらのEDMの定番フレーズやパターンの中から、イメージに近いものを選んでつないだり重ねたりすれば、作曲の知識がなくてもEDMっぽい曲が作れるでしょう。サウンド・エフェクトには、EDMに欠かせないノイズのスweep系を用意。ソフトシンセでも作れますが、オーディオ素材なら貼り付けるだけでOKなので、音作りが苦手な人はもちろん、自分で作れる人にとっても重宝するでしょう。

これらのオーディオ素材の中身については、ブラウザの「キーワード」の欄の表記が参考になります。

オーディオ素材を貼って直感的にEDMのトラックが作れる

それでは、EDMオーディオ素材を使った簡単なトラックメイクの方法を紹介しましょう。まず、ソングを新規作成する時はオーディオ・トラックのみでOKなので、テンプレートの「AUDIO 8トラック」を選びます。ソングが開いたら、Tempoトラックの先頭でテンポを「128」に設定しましょう。

最初は、グルーヴの基本になるドラム・ループの選択です。この時、ブラウザの絞り込み検索にある「楽器」の項目で「ドラム」を選べば、更にドラム・ループのみに絞り込まれます。そして、「キーワード」が「4つ打ち」となっているものをダブルクリックして試聴し、気に入ったものをトラックヘドラッグ＆ドロップしたら4小節ほどループさせます。次に、「楽器」の項目で「シンセ・ベース」を選んでベースを加えます。この時「キーワード」が「サイドチェイン」や「ウォブル・ベース」となっているものを選び、音色的な動きがあってオススメです。リズム隊ができれば、上モノのシンセサイザーのループを貼っていきます。試聴していくと、単音のフレーズやシーケンス(アルペジオ)パターンがあるので、その中からメロディーっぽいものを選びとグッと曲

らしくなります。

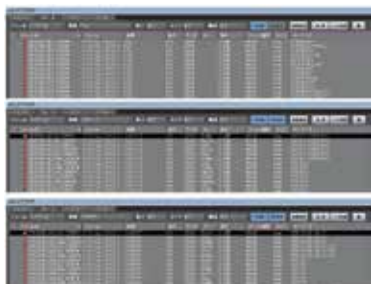
画面2の4小節パターンでは、ドラム(Track1)に「DR_EDM_LD02_128BPM」を、メインのベース(Track2)に「SB_EDM_LA01_B_128BPM」、サブのベース(Track3)に「SB_EDM_LIO2_E_150BPM」と「SB_EDM_LIO1_D_150BPM」を1小節ずつ交互に貼り、シンセ(Track4)には「SYN_EDM_LB05_Am_128BPM」を貼ってみました。ABILITYユーザーの人は、ぜひ試してみてください。「俺はロックギタリストだぜっ!」という人でも、簡単にEDMっぽい雰囲気トラックが作れると思います。

シンセ・サウンドを自分の楽曲に取り入れたいギタリストにもお勧め!

最近では、ギター主体のバンドでもシンセサイザーのサウンドを取り入れた楽曲が増えてきました。そんな曲を自分でも作ってみたいと思った時、このEDM系のオーディオ・ループ素材が役に立ちます。自分でフレーズや音色を考えなくても、手軽にシンセ・サウンドを取り入れることができるのです。

ABILITYのオーディオ素材は、コード・トラックのコードに応じて自動的にトランスポートされるので、貼る前に自分の曲のコード進行をコードトラックに入力しておけば、あとはブラウザからシンセサイザーのフレーズを選び、貼っていくだけで自分の曲にマッチしたトラックが作れます。もちろん、テンポもソングのテンポにストレッチされ同期します。

なお、コードを変える場合は、既に貼った波形をループで引っ張るのではなく、同じ波形を改めてブラウザから貼り直すのがコツです(画面3)。そして、再生してオクターブが高い/低いと思ったら、同じループのキーが違うものを貼り直す対処できます。「キー違い」は、キーワード欄の記述が一緒なので選ぶ時の参考にしましょう。



画面1 EDMのオーディオ・ループは、「ジャンル」で「イーディーエム」を選び、必要に応じて「楽器」で「ドラム」や「シンセベース」、「シンセサイザー」を選び絞り込むと選択しやすくなります。ループの内容は、「キーワード」の項目が参考になります。



画面2 EDMのループを使って「貼るだけ」で作ったEDM風トラックの例。これを自分で打ち込んで作るのとは結構大変な作業なのだ。でも、ループならマウス操作だけで簡単にできる。



画面3 自分の曲にシンセ・サウンドを取り入れたい時にも使える。あらかじめコード・トラックにコードを指定してから、コードごとにループを貼っていく。